

<b>イチゴのアザミウマ類の薬剤感受性検定</b>	
担 当	資源循環研究室 発生予察グループ ○杉田 麻衣子・東浦 祥光 資源循環研究室 病害虫管理グループ 溝部 信二
研究課題名 研究年度	農薬耐性菌・抵抗性害虫の診断技術の確立 令和3年

## 背 景

近年、県内の一部地域ではイチゴにおけるアザミウマ類の発生が多い状況が続いており、イチゴ生産において問題となっている。そこで、山口市のイチゴハウスで捕獲されたアザミウマ類を用い、薬剤感受性の低下について把握する必要がある。

## 目 的

イチゴの重要害虫であるアザミウマ類について、発生状況と各種の薬剤に対する感受性を調査し、防除指導対策に活用する。

## 成 果

- 1 検定に用いるため山口市のイチゴハウスで採取したアザミウマ類の内訳は、ヒラズハナアザミウマが 83%、ハナアザミウマが 17%である。
- 2 ヒラズハナアザミウマでは、試験を行った 12 種類の薬剤の中で、アーデント水和剤、グレーシア乳剤、スピノエース顆粒水和剤、ディアナ SC に対する死虫率は高く、高い感受性が認められるが、その他の死虫率は低く、感受性の低下が懸念される(図 1)。
- 3 ハナアザミウマは供試虫数が少ないものの、薬剤の感受性は概ねヒラズハナアザミウマと同様または一部高い傾向にあると考えられる(参考図)。
- 4 カウンター乳剤、モベントフロアブル、ベネビア OD、カスケード乳剤はいずれも遅効性の殺虫剤であることから、今回の検定結果では評価は判然としない(データ略)。

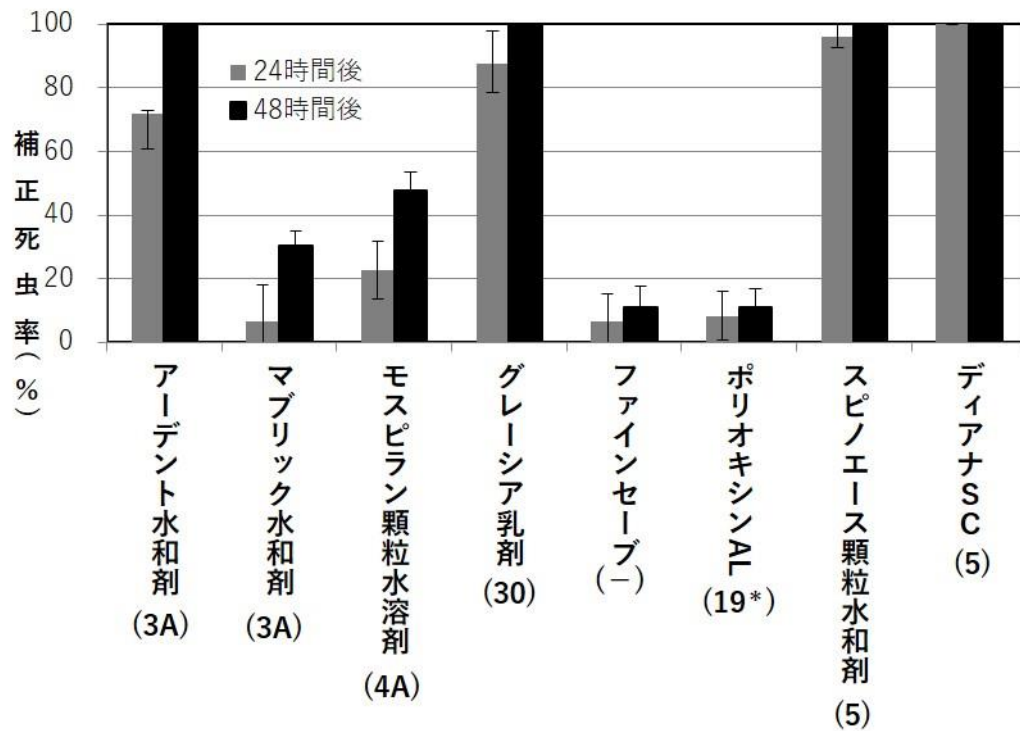
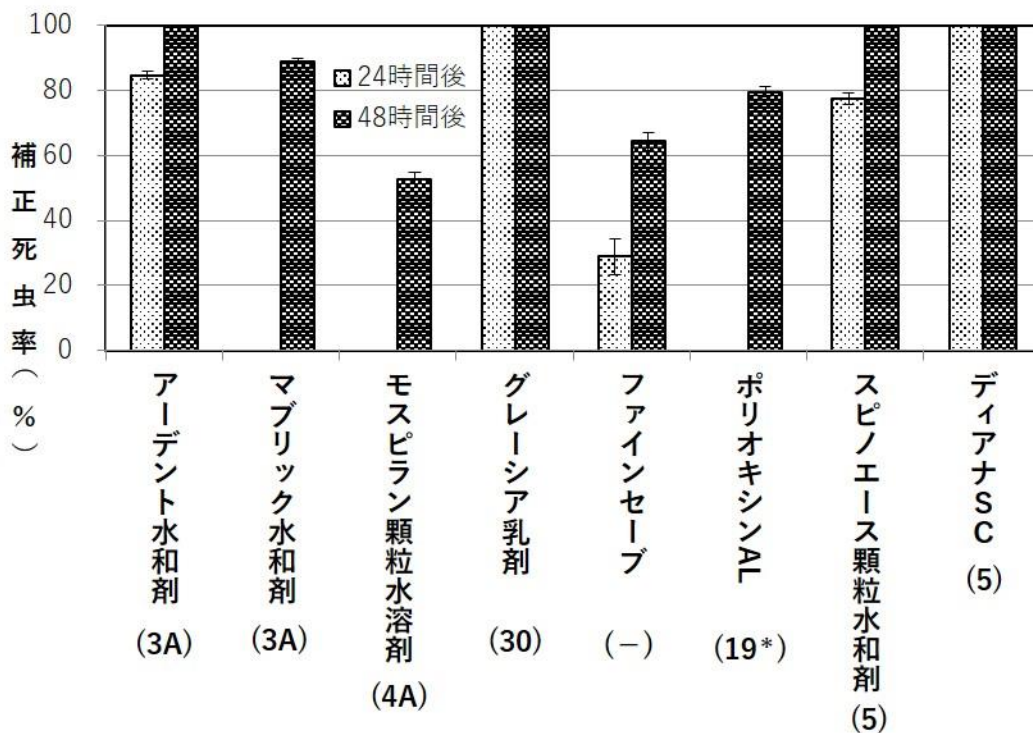


図1 イチゴのヒラズハナアザミウマの薬剤感受性検定結果

(括弧の中は IRAC コードを記載。ただしポリオキシシAL は FRAC コードを記載以下同様)



参考図 イチゴのハナアザミウマの薬剤感受性検定結果